

第一回 高二国語

総評

時間制限が厳しかったためか、古文・漢文では白答も目立った。まずは文法事項・重要単語といった基本知識を確認し、少しでも解答欄を埋められるようにしよう。復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を理解したうえで、再度問題に取り組むとよい。

問題別講評・採点基準

一

(一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。

(b) 「渴(き)」を「乾(き)」、(c) 「摂理」を「節理」などとしており文脈からずれているものや、(d) 「侮蔑」を「部蔑」「敏蔑」「蔑別」などさまさまに書き誤っているものが見受けられた。まず文脈を把握し、どのような意味の語が入るのかを確認すること。一字一字の意味を正確に把握し、書き間違えることがないようにしよう。

(二) 誤答は(ハ)が目立った。解説をよく読み、問題文中のどの表現に注目すればよかったのかを確認しておこう。

(三) 「採点基準」

「a 人々が自明と見なししている事柄を b 敢えて疑

わせ c 再考を迫る」点を押さえて — 8点

* a 部3点、b 部3点、c 部2点。

傍線部の後にある「常識を鵜呑みにせず、当たり前と思われている事柄を絶えず疑い、物事を根本から考え直す知的活動」を抜き出してきている答案が多かったが、これだけでは「はなはだ底意地の悪いひねくれた学問」という傍線部のニュアンスを説明し切れていない。人々に「敢えて疑わせる」(再考するように仕向ける)という、(しなくてもすすむことをわざわざさせる)という要素を含めて説明しよう。

(四) 「採点基準」

「a 哲学は何の役に立つのかと問題にされても b 堪えて平静を装い、強いて反論はせず c だが、「人間は生活の糧などの直接的な効用だけを求めはしない」と説いて d 目に見える形では役に立たない e 概念や価値を研究する」点を押さえて — 14点

* a 部2点、b 部2点、c 部4点、d e 部各3点。

比喩表現のニュアンスを汲み取り、文脈に即して正確に説明する必要がある出題。設問にあるように「パン」「つぶやく」「痩せ我慢」という表現それぞれについて説明することを意識して解答を作成してほしい。(哲学は目に見える形で役に立つことはない)という要素をふくらませて字数を稼ごうとしている答案が目立ち、「人はパンのみにて生きるにあらず」という言葉から読み取れる哲学の存在意義について、わかりやすく整理できているものは少なかった。また「痩せ我慢」という語について説明する、a 部・b 部の要素が抜けている答案も多かった。制

限字数が多めの記述問題に取り組む際は、解答にまとめるべき要素は何か整理してから、解答作成に取り掛かるようにしよう。

(五) 「採点基準」

「a 有用性を無条件に肯定して自明と見なすことは止め b 「何に對して」という文脈の中で有用性を捉え直す」点を押さえて — 10点

* a 部4点、b 部6点。

設問では『更新』し『深化』する」とはどうすることかを問われているのだから、まず現状の考え方を改めるということ、さらに理解を深めていくということ、二つの観点を押さえて説明しなければならぬ。単に「役に立つ」という概念について原点に戻って考え直す」とだけ述べている答案、「何に對して」という文脈を明確にする」という点しか押さえられていない答案が目立った。問題文全体の文脈を踏まえ、「自明のものとされてきた「役に立つ」という概念」をどのように再構築しようとしているのか、整理して説明しよう。

(六) (i)・(ii)とも(ハ)を選ぶものが散見された。論の展開や表現の特徴について問う設問はセンター試験でも頻出。選択肢の表現の細部にまで注意を払って、正解を選べるようにしたい。

(三)

(一) (a)で(ハ)の誤答が見受けられた。「屈託」の辞書義を確認しておこう。

(二) 「採点基準」

「a」「私」は男女の間につきものの煩わしさを理解できず、b 他の女の子とは違い純一との会話を独占できる。c 特別な地位にいる。d 自分に酔いしれていた。点を押さえて。——10点

* a 部4点、b 部3点、c 部1点、d 部2点。

「男女間の煩わしさを理解できず」という要素まで説明できた答案は少なかった。当時の「私」が男と女の間に面倒くさくある筈だとわかっていれば、たとえ純一に「面倒くさくない・特別だ」と思われていると知っても手放しで喜ぶわけにはいかなかったはずだ。なお、「自分に酔いしれていた」の部分を「優越感に浸っていた」「得意になっていた」とまとめている答案もあったが、ここは「夢中」という語義を踏まえて「我を忘れていた・他のことが見えなくなっていた」という方向で説明してほしい。夢中になった背景にどのような事情があるのかを踏まえつつ、心情を丁寧に分析しよう。

(三) 誤答は(d)が目立った。このような長い選択肢の問題を吟味する際には、選択肢一つ一つにキズがないか丁寧に確認していく必要がある。自覚した恋心に戸惑う「私」だが、それを純一に打ち明けたいとまでは思っていないことをとらえてほしい。

(四) 誤答では(i)(ii)が目立った。解説にあるように、「私」が「リエ」に話しかける時点からの発言内容とリエの様子を整理し、心情をとらえよう。

(五) 「採点基準」

「a」自分にはない繊細さをもち、恋心を体で表現できるリエに嫉妬し、b 彼女の思いを純一に気づかせたくないという思いや彼女が純一の関心を引きつけるだろうという予感に心を乱され、c 彼女の心を傷つけたかった。点を押さえて。——13点

* a 部5点、b 部6点、c 部2点。

何をどこまで説明するか悩んだ様子の答案が多かった。傍線部の「そのこと」が直前の「傷つけてしまった」を指すこと、傷つける対象となるリエが「純一の関心を引きつけ、私の立場をおびやかす存在である」ことは多くの答案が押さえられている。一方で、私の「動揺」や「嫉妬」、リエの「繊細さ」まで指摘した答案は少ない。傍線部直前の「傷つけてしまったのに気付いた」という表現からは、初めから傷つけようという明確な目的を自覚していたわけではないことを読み取ってほしい。自分にはない繊細さを持つリエが純一を振り向かせるかもしれないという不安、そんなリエに対する嫉妬。解説をよく読み、リエをめぐる私の心情をとらえよう。

(六) 誤答は(d)が目立った。問題文中にはリエの視線が「媚を売」っている指摘する部分がありまざらわしいが、「その鱗粉を……」の表現と結びつけるのは早急に過ぎる。また、リエに対する心情を「憎悪」とするのは言い過ぎ。表現の特徴についての問題は選択肢を比較検討していく姿勢が、よりいっそう重要となる。言い過ぎのものや明確な根拠のない

ものを確実に除いていくこと。

(三)

(一) まぎらわしいものもあるが、助動詞の意味の識別は古文読解の大事な基礎となる。ここで間違えてしまった人はもう一度しっかり復習しておこう。

(二) (a)「上下」を単語集などで見かけることは少ないが、古文ではよく目にする語なのでこの機会に覚えておくこと。(b)(c)は現代語の「あからさま」「ならふ」とは異なる意味を持つ語。どちらも頻出語なので覚えておきたい。

(四) 「採点基準」

(i)

「a いづれ (c)が b あきにあはではつ c べき」を「a どちらの草が b 秋にならないうちに枯れる c だろうか、いや、どちらの草も秋になって枯れるだろう」と訳して。——5点

* a 部1点、b 部3点、c 部1点。

(ii)

「a 仏御前も私祇王も b 結局清盛に飽きられて c 終わるだろう」と説明して。——5点

* a 部2点、b 部2点、c 部1点。

「秋」と「飽き」の掛詞は押さえられていたが、二重の意味をきちんと把握できている答案は少なかった。和歌は人物関係や和歌前後に書かれた内容との関連を押さえて読解しなければならぬ。リード文の内容も踏まえて検討すること。

(四) 「採点基準」

「a 参る b まじくは c そのやうを d 申せ。
e 淨海が f はからふ g 旨あり」を「a 参上し
b ないつもりならば c その理由を d 申し上げよ。
e 私も f 考える g ところがある」と訳して

—— 8 点

* a 部 1 点、b 部 2 点、c d e f g 部各 1 点。

傍線部の中にポイントとなる単語や文法事項が複数含まれており、それぞれを適切に訳出することが求められている。助動詞「まじ」を「……ない」と訳した答案が目立ったが、これでは打消と区別がつかないため、打消意志であることがわかるように訳出したい。

(五) 「採点基準」

「a 祇王の b 都を追放されることを恐れる母の願いを受け入れて c いやいやながら清盛のもとに行く d つらい気持ち」を押さえて

—— 8 点

* a b c d 部各 2 点

問題文の展開を整理し、清盛邸への参上をかたくなに拒んでいた祇王が、母に強く説得されてようやく清盛のもとへ参上したという経緯を押さえる。〈母の願いを受け入れて〉〈清盛のもとに行く〉どちらか一方しか押さえられていない答案も見受けられたが、祇王自身の心情としては両方を説明しておきたい。

(六) 誤答は各選択肢に分散した。「露」が〈祇王自身〉を表すという比喩、清盛と祇王が別れた翌年の

春という状況を結びつけて選択肢を検討すること。和歌は入試でも頻出なので、苦手意識は早いうちに克服しておきたい。

(七) 誤答は (d) が目立った。内容合致の問題では、現代文同様、選択肢の細部にキズがないか、一つ一つ丁寧に吟味していくことが大切である。解説と問題文全訳を参考に、誤りのポイントを確認しておこう。

四 漢文

(一) いずれも基本語彙だが、特に (a) 「所以」を「ところをもつて」、(b) 「尽」を「つきる」「つくす」などと読んでしまっている場合は要注意。漢字の読み・字義は、内容読解の重要なポイントになる。これを機に、しっかり覚えておこう。

(二) 文脈把握の設問。ここで間違えてしまった人は、問題文を丁寧に読み取り、文脈を追っていく読解を心がけよう。

(三) 「採点基準」

(i) 「必ず a 我の行くや、b 漢の c 患ふる者と d 為らんと」を「a 匈奴に私が行ったなら 必ずや b 漢の国が c 困ることに d なりましょうよ」と訳して

—— 6 点

* a 部 2 点、b 部 1 点、c 部 2 点、d 部 1 点。

〈中行説が匈奴に行くこと〉は押さえられている答案が多かったが、「漢の患ふる者」という表現の処

理に苦戦しているものが目立った。「漢の患者」「漢の病気になった者」では意味が通らない。〈漢が困る・悩むことになる〉という大意を押さえよう。

(ii) 誤答はさまざまな選択肢に分散した。〈中行説によつて漢が困ることになる〉という傍線部の意を押さえ、受身・使役の関係を整理して考えよう。

(四) 「採点基準」

「a 綿入れは藪草や棘の中を動くとき裂けたり破れたりするのに対し b 毛織物はそのような影響を受けず、機能性・耐久性の面で優れている」点を押さえて

—— 10 点

* a 部 3 点、b 部 7 点。

記述問題に回す時間がなくなつたのか、白答の答案も見られたが、〈綿入れは破けやすいが毛織物はそうではない〉という大筋は押さえられている答案が多かった。毛織物が優れている理由について説明するので、その具体的な特徴から一歩踏み込んで、〈機能性・耐久性〉についても説明できるとよい。

(五) 完答できている答案は多くなかった。誤答で目立ったのは (d) 問題文中から確実に読み取れることかどうかに注意して選択肢を吟味しよう。

第二回 高二国語

総評

時間制限の厳しさもあってか、白答も目立った。まずは文法事項・重要単語といった基本知識を確認し、少しでも解答欄を埋めることを心がけよう。復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、話の展開を押さえてから、再度問題に取り組むとよい。

問題別講評・採点基準

一 評論

- (一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。
- (d) 「二環」を同音異義語の「二貫」とするもの、「二還」「二慣」などと誤るものが目立った。まず文脈を把握し、どのような意味の語が入るのかを確認すること。

- (二) (x) 〈正確かつ適切に表現している〉という語義を踏まえた解答はほとんど見られなかった。ニュアンスはわかっているが、三字という短い字数で端的にまとめるのは難しかったかもしれない。この機会に辞書での意味も確認しておいてほしい。

(y) 「採点基準」

- 「a 人の b 不注意や怠慢から生じる a 災害」と押さえて — 5 点

* a 部 3 点、b 部 2 点。

〈人が引き起こす災害〉という a 部はおおむね押さえられていた。字数制限を踏まえ、〈過失や無策によって生じる〉という b 部の要素も含めること。

(三) 「採点基準」

- 「a 普遍的原理ですべて対応できるとは限らず b 予測できないトラブルの生じる可能性が c 大もとにある」点を押さえて — 10 点

* a 部 4 点、b 部 4 点、c 部 2 点。

〈普遍的な原理で対応しきれない〉という a 部の要素は押さえられている答案が多かった。だが、それだけでは「根源的な不確実性」とはどういうことかの説明にはならない。傍線部直前の「二〇〇パーセントの安全もそもそもあり得ない」という表現をそのまま使う答案も見られたが、その理由を説明しなければならぬので、「不確実性」を〈予測できないトラブルの生じる可能性〉、「根源的」を〈大もとにある〉などと言い換えてまとめる必要がある。

(四) 「採点基準」

- 「a トラブルの発生時に自動的にそれを最大限に回避するシステムのフェイル・セーフは、b 無限に作れないがゆえに割り切つて作るしかないのに、その割り切り方が難しく、c しかも、このシステムが働いたとき、それが機械の誤作動か否かの判断も難しい場合があるため」と押さえて — 16 点

* a 部 6 点、b 部 6 点、c 部 4 点。

〈フェイル・セーフはどこかで割り切らなければ

ならないシステムである〉という要素はおおむね押さえられていたが、「完全なものとは言えない」理由を説明するためには、〈その割り切り方が難しい〉点を明示し、さらに文中で説明されている〈誤作動か否かの判断が難しい〉点まで含めなければならない。字数制限が百二十字と多めなので、自分の解答は必要な要素を網羅できているか、因果関係を正しく説明できているかに注意して復習するとよい。

- (五) 白答も見受けられたが、おおむねよくできていた。解説で示したように、各段落の論理展開を丁寧に押さえていくことが大切だ。

- (六) 誤答は (イ)・(ロ) が目立った。選択肢はいずれももつとらしく見えるが、筆者の「二〇世紀型科学技術」に対する問題意識を押さえ、選択肢一つ一つを丁寧に検討してほしい。

二 小説

- (一) (a) (c) ともよくできていた。語句の問題や漢字の問題は確実に得点できるようにしておきたい。

(二) 「採点基準」

- 「a 激痛に耐える美雪を見守るといふ緊張から解放されて気が緩んだ遠井に b 不意に安楽死の是非という深刻な問いを投げかけ c 衝撃を与える」点を押さえて — 11 点

* a 部 4 点、b 部 4 点、c 部 3 点。

「横蹴り」なので、予想していなかった衝撃とい

うことになるが、「遠井が思ってもいなかった安楽死」という言葉を持ち出し、遠井の不意をついて驚かせるという行動」は説明として物足りない。緊張から解放されて「ほっとした瞬間」に投げかけられた予期しない問いなので、衝撃が大きかったのである。この点からもc部は「困らせる」「困惑させる」程度では弱い。「くらわす」には、「相手の欲しないものを与える」という意味がある。「横蹴りをくらわす」という表現から、遠井の受けたショックの大きさを説明してほしい。

(三) 誤答は(ウ)が目立った。このような選択肢の問題を吟味する際には、問題文と選択肢とを一つ一つ照らし合わせて丁寧に確認していく必要がある。「治療にはさらなる苦痛を伴い、必ずしも助かる保障もないため」は問題文から読み取れない内容である。

(四) 誤答は(エ)が目立った。この選択肢でも、「せめて美雪の前では明るくあろうと決意している」は問題文のこの場面からは読み取れない。

(五) 〔採点基準〕

「a それまでは自分の身実際に起こると思えず、あくまでも想像上のものであった死が」 b 自分にも十分に起こり得る切実な問題となった」 点を押さえて 11点

* a部7点、b部4点。

「死というものが遠井にとっては概念にすぎなかったが、瀕死の美雪と接したことで、現実味を帯

びてきたこと」といった答案では、「観念の世界」から「波打ち際に流れ着いた」という変化についてはとらえられている。ただ、「彼」の「波打ち際」とあるから、問題文の89・90行目「そして自分の死を思った。怖かった。怖くて眠れなかった」や101行目「遠井は遠井の死を背負って生きていたのだった」といった記述を踏まえて、これが遠井自身の問題である点を明確に示したい。

(六) 誤答は(イ)(ロ)に分散した。それぞれの選択肢の場面と説明が問題文にふさわしいものかどうかを慎重に検討しよう。言い過ぎのものや明確な根拠のないものを確実に除いていくこと。

古文

(一) (イ)の意味を「使役」ととったものがあつた。こは「きこえ」が女御への敬意、「させ給ふ」が「帝をはじめ」とした人々への敬意をそれぞれ表している。(ロ)の意味の誤答はさまざまに見られたが、連体形が「るる」となるのは、受身・可能・自発・尊敬の「る」しかないので、ここから解答の候補を絞れるはずだ。

(二) (a)「おぼえ」にはいくつかの意味があるが、「御おぼえ」となっていたら、「寵愛を受けること」の意であることが多い。(b)は「わたる」の意味を表せていないのが目立った。(c)は「聞こゆる」を「言われている」としたものが多かった。

(三) 〔採点基準〕

「a 承香殿の女御に」 b 見たい漢籍を貸してほしいということ c 申し上げて d くれなやか」と訳して 8点

* a部2点、b部3点、c部2点、d部1点。

「誰にどういうことを」という点を補つての口語訳だが、補う内容に気をとられたせいか、説明問題のように「……ということ」と文末を結んだり、「……ということが聞こえているか」のように「聞こゆ」が正しく訳せていないものが多い。冒頭から、「承香殿の女御」「故式部卿宮」「大将」などの人物名が記されていることに加えて、新たに「蔵人の弁なにがし」「宰相の君」までが登場して、完全に混乱してしまったようだ。このように登場人物の多い文章では、リード文や注の記述も見落とさずに読み進めよう。

(四) (2) (ロ)の誤答がやや目立った。(3) (イ)を選んだ人は「みづから」に「御」が付いていることを見落としたようだ。古文ではこのように敬語の使い方が大きなヒントになる。これからは注意しよう。

(五) 〔採点基準〕

「a 承香殿の女御が父から伝えられた漢籍を持っていたので」 b 大將に自分の恋しい思いを知らせることができた」 点を押さえて 8点

* a b部各4点。

この設問は白答が目立った。解答が書いてあっても、「実際の事実」を正しくとらえられているものは少なかった。たとえば、「書きつくる昔の跡」を「昔

書いた手紙」と解釈したものがあった。「跡」には〈筆跡〉の意味が確かにあるが、ここで女御と大将の仲をつなぐきっかけとなったのは、女御が相続した父の漢籍である。また、「やは」の反語表現を見落として、「知らせることができなかった」と解釈したものも目立った。女性から男性にアプローチするのが、通常の古文では考えにくい状況なので、この歌を大将から女御に送られたものと考えた人もいたようだ。

(六) 誤答は(四)が目立った。「身に添はぬ心」とは承香殿の女御の詠んだ歌にある「心は身にも添はずなりゆく」を受けた表現である。和歌でのやり取りは、このように相手が詠んだ歌にある表現を受けて返歌をすることが多い。問題文に和歌が何首か出てきたら、設問になっている和歌だけでなく、その前後にある和歌にも目配りすることが大切だ。

(七) 誤答は各選択肢に分散したが、(ウ)がやや多い。問題文合致の設問では、表現の細かい点まで注意して読み、選択肢の細部にキズがないか、一つ一つ丁寧に吟味していくことが大切である。

四 漢文

(一) (a)「以為」を「もつてなす」と読んでいるものが目立った。直後に「苦痛なり」という引用が来ており、返り点がついていないことに注意。「為」という字の使い分けについて確認しておこう。

(二) 「無常生死」「其」「禿」といった誤答が見られた。「無常生死」の悩みを相談している患者に対する返答であることを踏まえて考えること。

(三) 「採点基準」

「a 蚊や蛇に b 食われるのである」と訳して

—— 4 点

* a b 部各 2 点。

おおむね意味を押さえられているものがほとんどだった。受身で訳出できなかった人は、基本句形を復習しておこう。

(四) 誤答は(四)が目立った。これでは〈自分の悩みを真つ先に治してから自分の悩みを取り除く〉ということになり、意味が通らない。文脈を正確に押さえよう。

(五) 「採点基準」

(i) 「a 我も亦た、b 心に、c 先づ自ら得て d 汝をし

て又得しむ e べし」と書き下して —— 5 点

* a b c d e 部各 1 点。
特に d の部分の処理が難しかったようだ。「しむ」を「令む」など漢字のままにしまった人は、しっかり復習しておいてほしい。

(ii) 「a 私もまた、b きつと c まず第一に自分で長生不死の方法を得て、d さらに e あなたにその方法

を得させるに b 違いない」と訳して —— 6 点

* a b d e 部各 1 点、c 部 2 点。

〈自分が得てからあなたに得させるだろう〉という大意はおおむね押さえられていたが、「言葉を補って口語訳せよ」とあるので、何を得させるのかを明確に示さなければならぬ。第一段落と第二段落で〈禿の治療法〉から〈不老不死を求めること〉に話題が転換していることが読み取れない答案が見受けられた。全訳を参考に復習しておくこと。

(六) 「採点基準」

「a 不老不死を得る方法は、b いくらそれを求めても得られないもので、ただ自分が疲労を覚えるだけ」という点で、c 禿の治療法と同じだから」と押さえて —— 9 点

* a 部 2 点、b 部 5 点、c 部 2 点。

白答の答案も目立ったが、復習の際はぜひ自力で解答を作成してみたい。まず傍線部を口語訳し、設問で問われているポイントを探る必要がある。〈禿の治療法が存在しない〉という要素をふくませようとしている答案が目立ったが、全体のまとめに当たる設問なので、〈不老不死を求めることの不毛さ〉という第二段落の内容を踏まえて説明すること。

第三回 高二国語

総評

時間制限が厳しかったためか、特に古文・漢文の記述問題での白答も目立った。まずは文法事項・重要単語といった基本知識を確認し、少しでも解答欄を埋められるようにしよう。復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を理解したうえで、再度問題に取り組みとよい。

問題別講評・採点基準

一 評論

一 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。
a 「糾弾」を「叫弾」、b 「墮落」を「惰落」と誤るものが見受けられた。つくりが似ている字を混同しないように、しっかりと復習しておこう。

二 誤答はさまざまな選択肢に分散した。傍線部周辺の文脈だけ見ているといずれももっともらしく見えるが、「象牙の塔」「アカデミズム」それぞれの語義をしっかり押さえて検討しよう。

三 [採点基準]

「a 被抑圧者集団といえども b その内に存在する c 批判されるべき問題」を押さえて—— 10点
* a部4点、b c部各3点。

〈被抑圧者集団にどのように反省を促すかという問題〉〈同じ命題でも、誰がどのように言うかによって意味が異なる問題〉という方向でまとめている答案が目立った。解説で示したとおり、傍線部でいう「こうした問題」とは、問題文1行目の「命題」を指す。この前提を受けて、抑圧者集団・第三者集団の人々はどうのような態度をとるべきか、と問題提起を行っているという流れをとらえてほしい。

四 誤答が目立ったのは「両成敗」。これは第三者が「『高みの見物』的立場」から唱えるものとされており、空欄直後の「高みの見物」に含まれる。ここは、抑圧者側の問題ある態度として挙げられている「居直り」が最適。

五 [採点基準]

「a 抑圧者集団の側が被抑圧者集団の側の非を語る時には b 両者の所属の相違という客観的構造を踏まえ、c 友好の姿勢を明確にした上で、d 常に誤解の怖れを持ちつつ e 相手の言い分に耳を傾けて、f 表現の仕方にも気を配り、g 自分なりの理解に基づき問いを投げかけて h 対話を行う」という点を押さえて—— 16点
* a b c d e f g h部各2点。

しっかりと取り組んでいる答案が多かった。〈被抑圧者集団を批判するときは、友好の姿勢を明確にして、誤解されないようにする〉という枠組みに沿ってまとめている答案が多かったが、〈自分が相手を誤解しているかもしれないという懸念〉〈相手の言い分にも

耳を傾ける〉といった〈対話しようとする姿勢〉も押さえてほしい。制限字数が多いため、すべての要素を網羅することは難しかったかもしれないが、しっかりと復習しておこう。

六 誤答が目立ったのは才。誤答理由は解説で示したとおりだが、第三者集団のとるべき立場に限定して述べているように読める点からも、問題文全体の趣旨からはずれるといえる。問題文冒頭の「命題」について、抑圧者集団・第三者集団側の人々がどう向き合うべきか、という筆者の問題意識をとらえよう。

二 小説

一 a b cともだいたい押さえられていたが、bでウ、cでアの誤答が見受けられた。bは誤りやすいところだが、「損じない」の語義に忠実なものを選ぶ。c「つくねんど」の意味を知らなかった人はこの機会に覚えよう。

二 誤答は分散していたが、おおむねとらえられていた。人物像をとらえる設問では、自分の思い込みやイメージではなく、文中に根拠が示されていることから判断しよう。

三 [採点基準]

「a 釣り船の船頭として、新たな土地で生活を始める前に、b 横浜で今まで世話になった人々のために、

自分のできるだけのことはやり終えてからこの地を去りたいという思い”を押さえて—— 12点

* a b 部各6点。

「海」はこれからの船頭としての生活、「陸」は今のまでの横浜での生活、という大枠は押さえられていた。ただ「陸」での生活について、「吉居の親戚にこき使われていた」「雑用ばかりの生活も離れば懐かしくなる」など否定的なとらえ方をしているものがあつた。確かに六さんは吉居の親戚から重宝に使われていたが、「目につく限り……駆けまわった」「自分がいなくなっても当分は大丈夫」という記述からは、吉居の人々に対してできるだけのことをしているという、六さんの好意的な心情がうかがえる。これが「こまごまとした情」である。なお、「情」について『新明解国語辞典』では、「人間関係が深まるにつれて、高まつてくる（ことが期待される）暖かい感情」と説明している。

四 よくとらえられていた。「得手に帆をあげる」の意味を知らなくても、直後の「もう誰の……あやつつてな」から判断できただろう。

五 「採点基準」

” a 隆之介の死を最も悲しんでいるのはずのふさ子が悲しみに浸る姿を見せずに気強くふるまう以上、b 自分も泣き顔を見せずに祖父を見送りたいという思い”を押さえて—— 11点

* a 部7点、b 部4点。

よくとらえられていた。「誰よりもふさ子が」の説

明では「誰よりも一番隆之介の死を悲しんでいるふさ子が」のように、言葉をつめて説明できていた。「気丈を通す」と傍線部の表現のままのものがあつたが、ここは自分の言葉で「気丈に振る舞う」などと言い換えたい。また杏子について「前を向いていこうと思った」と説明したものがあつたが、「前を向く」は比喩的な表現なので、もう一步踏み込んで説明したい。

六 誤答は分散していたが、ややエが目立つた。「晴れがましきにも似た感覚」は隆之介の「潔い終わり方」を周囲が「幸せ」と納得し、敬意をもつて受け入れていることからくるものだから、「無責任ともいえる明るさ」とはいえない。表現の特徴についての問題を解く際は、選択肢を比較検討していく姿勢が、よりいっそう重要となる。言い過ぎのものや明確な根拠のないものを確実に除いていくこと。

三 古文

一 xyzとも誤答は分散していた。品詞の識別は古文読解の大事な基礎となる。ここで間違えてしまった人はもう一度しっかり復習しておこう。

二 aを「にこやかに」とかん違いしたものがあつた。「にほひ」の語義を押さえておこう。bはよくできていた。「思い出される」だと受身にとれてしまうので、尊敬だとはつきりわかるように表現を工夫しよう。c「飽かず」は〈満足しない〉〈飽きない〉の

意味で覚えている人が多いが、〈心残りだ〉という意味もあることをこの機会に覚えておこう。

三 Aは「すでに亡くなっている」「もう生きていない」という旨の解答があつた。「今は世にいない人だ」と思っているだろう」というのは中宮の言葉で、若君の言動にはない。Bは〈中宮が母ではないか〉という点は押さえられていた。Cの誤答は分散していた。この箇所は若君・中宮とも心中語で「」が付いていないので、どの箇所を解答の根拠にすればよいのが難しかったのだろう。このような箇所では、引用を表す「と」などに着目して、慎重に読み進めたい。

四 「採点基準」

” aあなたのお母さんは b私としかるべき縁のある人なので cあなたのことを dあなたのお母さんは eたいそう忘れがたく f恋しく思い申し上げているようなのを g私は見るのが気の毒なので”と訳して—— 13点

* a 部1点、b 部3点、c d e 部各1点、f g 部各3点。

傍線部の中にポイントとなる単語や文法事項が複数含まれており、人物関係がわかるように言葉を補って、それぞれを適切に訳出することが求められている。cは「(若君の)御こと」だが、「母君のこと」と解釈したものがあつた。また、「恋ひ聞こゆめる」の「める」を訳していないものもあつた。助動詞・助詞も見落とさずに訳そう。

五 [採点基準]

「a 中宮の、b 同じ我が子なのに、c 皇子たちとは異なり宮中から離れた場所へ暮らす d 若君を e かわいそうに思う気持ち」を押さえて——8点
* a d 部各1点、b c e 部各2点

「誰の」が中宮であることはよく押さえられていた。「心情」については、「若君と離れたことを嘆く」「若君に対してすまないと思う」など、中宮自身に向けた気持ちととらえたものが目立った。和歌を詠むきっかけになったのは「宮々にうちかしこま」っている若君の姿を見て「いとあはれ」と思ったことで、詠まれているのは「田鶴の子（若君）」なので、若君に向けた気持ちととらえたい。

六 誤答は分散していたが、アがやや目立った。「御簾をひき着て候ふ」とは、御簾を肩にかけるようにしてかしこまっている姿の描写。中宮と呼ばれて、二の宮は屈託なく母の部屋に入るが、若君は自分の身分をわきまえて部屋には入らない。内容合致の問題では、現代文同様、選択肢の細部にキズがないか、一つ一つ丁寧に吟味していくことが大切である。解説と問題文全訳を参考に、誤りのポイントを確認しておこう。

四 漢文

一 読み・意味ともに解答するのは難しかったかもしれない。解説でしつかり復習しておこう。

二

一 よくできていたが、一レ点の使い方をよくわかっていないように思われるものも散見された。返り点のルールは漢文学習の基本。読む順番を確認し、どのように返って読めばよいのかをとらえよう。

二 [採点基準]

「a 宮廷内の作法礼法につきましては、b 慎み深く行わなければならない」と訳して——5点
* a 部2点、b 部3点

後半部を「慎まないことができない」(慎まないわけはない)など、「不可不」が二重否定であることはとらえているがニュアンスがずれる訳出になっているものが見受けられた。「不可」の禁止の意をとらえ、(くしななければならない)という強い肯定の意を明確にしよう。

三 [採点基準]

「a 来たらずんば b 且に c 通を斬せ bんとす」と書き下して——5点
* a b 部各2点、c 部1点

「不来」が(もしも来府しないならば)という仮定を示し、「且斬通」という後半部と切り分けられることが読めていないものが目立った。「且に……んとす」という再読文字は基本的なもので、しつかり復習しておこう。

四 [採点基準]

「a 鄧通は b 額を地に擦りつけ、c (額から) 血

を流してまで b 謝罪したのだが、d 申屠嘉の怒りは解けなかった」と訳して——6点
* a c 部各1点、b d 部各2点

「鄧通が額から出血するほど謝罪している様子」はおおむねとらえられていたが、「解」を(申屠嘉の怒りが解ける様子)ととらえられているものは少なかった。口語訳の問題なので、(謝罪しても許されない)という方向ではなく、「解」が意味するものを正確にとらえてほしい。

五 誤答はア・オが目立った。解説に示したように「上」「丞相」「通」という主語と動詞の関係を整理して丁寧に意味をとらえよう。

六 [採点基準]

「皇帝と申屠嘉が、宮廷の礼法を正すために示し合わせて、鄧通を反省させてから許した」ととらえたものが可、8点。

「申屠嘉が、皇帝から正式な使いが来たので、鄧通を許した」ととらえたものは4点。

「申屠嘉が鄧通を許した」ことのみを押さえたものは2点。

鄧通⇨丞相ととらえるものなど、人物関係を読み誤ってしまう答案も見受けられた。模範解答レベルの答案を作成するのは難しいだろうが、(誰が誰を責めて許したのか)という流れはしつかりとらえてほしい。

第四回 高二国語

総評

例年に比べ、解答欄をなんとか埋めようと努力している様子がうかがえる答案が多かった。時間制限の厳しい模試ではなかなか納得のいく解答を作り上げることは難しいので、復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を理解したうえで、再度問題に取り組むとよい。

問題別講評・採点基準

一 評論

一 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。全問正解できている答案は少なく、a「顧慮」を「考慮」「固慮」、e「包摂」を「包節」「包説」などと誤るものが目立った。しっかりと復習しておく。

二 〔採点基準〕

「a 非正規雇用者として b 補助業務に従事する」という c 雇用形態」を押さえて—— 9 点
* a 部 3 点、b 部 4 点、c 部 2 点。

「基幹的な職種以外の仕事（パートや派遣労働者）」という方向でまとめている答案が多く、a・c の要素を網羅できているものは少なかった。解説をよく読み、傍線部前後の文脈を押さえておくこと。

三 〔採点基準〕

「a フリーターのネガティブ・イメージを b 若年男性に c 負わせ、d 一人前の職業人としての自覚が薄い者 c というレッテルを貼り、e 彼らを正規雇用 に値しないと企業が見なす」という点を押さえて—— 14 点

* a d 部各 3 点、b 部 1 点、c 部 2 点、e 部 5 点。

「若年男性を正規雇用から排除する」という大枠は押さえられている答案が多かった。どのような枠で排除されているのか、制限字数に合わせて解答を作成するのは難しかったかもしれない。若年男性がどのようなレッテルを貼られているのか、解説を読んで整理しておく。

四 誤答が目立ったのはイ。解説で示した通り、「フレキシブル」の語義を押さえて選択肢を検討することが求められる。問題文中の表現が含まれる選択肢をそのまま選ぶのではなく、傍線部の正確な意味を押さえて検討しよう。

五 〔採点基準〕

「a 解剖学的性差に基づく男性の正規雇用は止めて b 競争に勝った男性を〈真の男性〉と見なし、正規雇用者にする」という点を押さえて—— 14 点
* a b 部各 5 点、c 部 4 点。

「男同士の絆」〈真の男性〉というキーワードをどう説明するかに苦労している答案が多かった。〈競争に勝ち残れば誰でもそこに加わることができる〉と

前向きな方向でまとめている答案も見受けられたが、問題文末尾の結論を踏まえれば、〈家父長制論理に立脚した上で、競争に勝った男性のみを選別する〉ということになる。自分の答案が押さえられていなかったポイントを確認しておくこと。

六 誤答は分散していたが、やや目立ったのはウ。「ネオリベリズムなジェンダー秩序の論理」とは、「近代的性別分業イデオロギー」を単に肯定するだけではなく、さらに選別を加えるというものになっている。解説をよく読み、正答選択肢を確認しておく。

二 小説

一 a b c ともにだいたいよくできていたが、b の「性懲りもなく」は、a の「余儀なく」、c の「融通」などと比べると多少なじみが薄かったのか、アイウの誤答が散見された。「性懲り」の「性」は〈本性〉のことで、〈心の底から懲りること〉を意味する。

二 〔採点基準〕

「a あまりにも頻繁に父からカメラのレンズを向けられていた母を b 気の毒に思う一方、c そこに潜んでいた母に対する父の愛情を d ほほえましく感じている心情」という点を押さえて—— 11 点
* a b c 部各 3 点、d 部 2 点。

「母」に対する心情」だけを答えている答案も目につくが、設問には〈父母に対する心情〉とあるので

で、〈父と母に対するそれぞれの心情〉、あるいは〈父と母の関係に対する心情〉として答えたい。そうした細かいところに気をつけて解答できるようになれば、点数は伸びる。

三 全体的に、〈私がそのように感じた理由〉をよく読み取れている。イと答えた人が少数いるが、少々考えすぎてしまったのかもしれない。娘である「私」は、〈母が幸せだったこと〉を疑ってはいない。

四 こちらもよくとらえられていたが、前問の三よりも選択肢が紛らわしかったようで、イウエの誤答が散見される。選択肢のどの表現が不適切なのか、解説をよく読んでおいてほしい。

五 〔採点基準〕

「a」魂を抜き取られる」という冗談を否定しなかったため b 母が病気になったのではないかと c 後悔する一方、d 好きな写真を断つて e 母の病気が良くなるよう f 願掛けをしようとしたから」を押さえて 12点

* a～f 部各2点。

形の上では理由説明問題だが、実は指示語の内容を、本文を要約してまとめればよい問題なので、方向としてはだいたいよくできている。ただ、細かい表現の部分で点数に差が出た。「母が病気になったのは自分の言動が原因ではないかと自負し……」と書いた人がいるが、「自負」は〈自分の行動などに自信と誇りをもつこと〉である。

六 正答が一番多かったものの、アイエオにも答が分散した。表現の特徴についての問題は、選択肢が長くなることが多く、内容をしっかり比較しながら読解することが意外と難しい。選択肢のどの部分が不適切なのかを確実に見抜けるように、十分な練習を積んでほしい。

三 古文

一 四つとも正解できた人は、「に」の識別については自信をもつてよいだろう。aの「格助詞」が意外と盲点だったようで、ウエとした誤答が目につく。その結果、b c に入れるものがなくなってしまう、全体がガタガタになってしまったと思われる人もいる。品詞の識別は古文読解の基礎となるため、試験に頻出する。今回の「に」の識別はその代表なので、しっかり復習しておきたい。

二 1の「いうに」を「優に」と解釈するのは難しいだろうと予想していたが、やはりアウの誤答も多かった。イと答えた人は惜しい。言葉の意味としては誤りではないが、ここは〈式部に対する評価〉であることまで考えて判断したかった。

2も予想通りエの誤答が多いが、「こまやかにて」を「(とても行き届いた) 風情で」と解釈するのは意訳に過ぎるので、正解のイに及ばない。

三 〔採点基準〕

「a 保昌が式部を b 恋しく思う c 様子」を押さえて 6点

* a部3点、b部2点、c部1点。

この「思ひ」が〈恋愛感情〉であることはほとんどの人が押さえていたが、細かなところで差がついた。まず、設問には「人物関係がわかるように」とあるので、〈保昌が式部を(恋した)〉という二人の関係性を正しく示すことがまず重要。さらに、この「思ひの色」は、女院が保昌の気持ちを悟ることになった契機となるもので、〈表面に現れた 様子・気配〉であることまで明示したい。

四 〔採点基準〕

「a 保昌が、b 院の意向に遠慮して式部への恋心を打ち明けないで、c 神仏に祈って気持ちを抑えようとしたものの、d なお募る思いに苦しんでいると e 知ったから」と説明して 10点

* a e部1点、b c部3点、d部2点。

院が傍線部のように思った理由は、傍線部の直前に「……など申し上げれば」と理由を述べる表現があるので、保昌が申し上げた内容を要約すればよいとわかる。だから、本文全体の大意を押さえている人は、細かい表現での減点はあっても、だいたい得点できている。しかし、そもそも人物関係を読み取れなかった人も多く、あまりではよくない。〈保昌が女院に恋している〉などと誤解した人は、本文を最初から丁寧に読み直して、どこでそう読み違えることになったのか、確認しておいてほしい。

五 和歌の解釈に関する問題で、難しかったはずだが、意外と正答率は悪くない。あてずっぽうで選択した人もいるだろうが、〈一番それらしい選択肢を見抜く力〉も大切ではある。ただ、選択肢が受験者を引つけるように作られている場合には通用しないので、そればかりに頼るのはやめよう。誤答はウエオに分散した。解説を参考に、誤答となるポイントを確認しておいてほしい。

六 設問に「相手にどのようにしてほしいと詠んでいるのか、『……てほしい。』につながる形で」とあるので、歌の句末の「なん」が〈他に対する自分の望みを表す終助詞「なん(なむ)」であることはすぐに見抜けるはずである。

〔採点基準〕

Y

〃 a 逢瀬の思いが冷めないうちにすぐ b 返事を送つ (てほしい。) 〃 を押さえて 7点

* a 部 4点、b 部 3点。

句末に「文結ばなん」とあることから、〈手紙を送ってほしい〉という意味の歌であることをまず見抜く。さらに上の句から、〈夢のような逢瀬の気分が冷める前に〉などと補足説明をすればよい。

Z

〃 a ひとり寝の夜の b 袖を濡らす涙の多さを c 知つ (てほしい。) 〃 を押さえて 7点

* a b 部各 3点、c 部 1点

こちらも句末に「知らなん」とあることから、何かを〈知ってほしい〉と訴えている歌であることを

まず見抜く。〈一人寝る夜の袖(を知ってほしい)〉の意味を正しく解釈するのは難しかったと思うが、解説をよく読んで、次に同じような問題が出たときには、きちんと対応できるようにしておこう。

四 漢文

一 特に c 「がえんぜず」ができていないものが目立った。「サ変動詞」という限定に答えようと「こせず」「ぜせず」などの読みを作り出している答案が見受けられた。重要語なので、しっかり押さえておくこと。

二 誤答で目立ったのはア。使役の句形の解釈が難しかったかもしれない。使役の助動詞「令」+動詞「還」+目的語「車」〃〈車を還させる〉という構造になっていることに気づけるかがポイントだった。

三 〔採点基準〕

〃 a 豈に b 必ずしも c 罪に伏せ a んや 〃と書き下して 5点

* a b 部各 2点、c 部 1点。

反語の「豈に……んや」は押さえられているものが多かったが、完答できている答案は少なく、「必」を部分否定の「必ずしも」と読むことを押さえられていないものが目立った。全部否定と部分否定についてしっかり復習しておこう。

四 〔採点基準〕

〃 a 石渚よ、(お前は) b 執法官(政廷)の仕事に c 戻りなさい 〃と訳して 7点

* a 部 3点、b c 部各 2点。

〈王が石渚に呼びかけている〉ことは押さえられても、「事」が何を指すか読み取れていないものが多かった。問題文全体の文脈を押さえて解釈する必要があるので、全訳を参考に、傍線部に至る流れを確認しておくこと。

五 〔採点基準〕

一

〃 a 殺人者は逮捕処刑されるという法を破ったので b 政廷として国法を守り死罪となった行為 〃を押さえて 8点

* a 部 3点、b 部 5点。

二

〃 a 親を裁くことに耐えられないとの私情から、 b 殺人者である父を逮捕処刑しなかった行為 〃を押さえて 8点

* a b 部各 4点。

方向違いの答案も見られたが、問題文の内容をおおむね把握できていると思われる答案が多かった。ただ、「忠」と「孝」を整理して説明することは難しかったようだ。石渚は父の身代わりとして処刑されたのではなく、国法を守るために死罪となったのである。解説をよく読んで整理しておこう。

第五回 高二国語

総評

記述問題を白答にしている答案も見られたが、解答欄をなんとか埋めようと努力している様子がうかがえる答案が多かった。時間制限の厳しい模試ではなかなか納得のいく解答を作り上げることは難しいので、復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を理解したうえで、再度問題に取り組むとよい。

問題別講評・採点基準

一

一 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。
全問正解できている答案は少なく、特に「卑近」を誤るものが目立った。しっかり復習しておこう。

二 [採点基準]

「人文的研究は、a文化や社会の抱える公的な問題 bとも関係づけて人間を広く捉えるべきもの c研究者の私的な好奇心に発し、dその好奇心を満たせば十分なものと見なされてしまうということ」を押さえよう。14点

* a c 部各5点、b d 部各2点。

「人文的研究は公的であるべき」(研究者の私的

な好奇心にとどまってしまう)という大枠は押さえられているものが多かった。「人文的研究が、個人的な嗜好の問題に還元されてしまう」という傍線部の構造を意識して、「(研究者の私的な関心から発し、その枠内にとどまるものとなってしまう)という形でまとめることができるかどうかで差がついた。

三 誤答では「それと同様」が目立った。これは筆者の考える学問のあるべき姿を述べた箇所であり、設問で問われている「学問の世界で勝負する専門的研究のあり方」とは異なる。「そもそも」を抜き出すものもあつたが、この箇所は具体的な説明としては不十分。解説を読み、考え方を押さえておこう。

四 誤答で目立ったのは才。問題文を通して筆者が問題意識を抱いているのは、「人文学における専門的研究」が「(研究者の私的な好奇心のために行われてしまう)点であり、研究の結果ではなく出発点」目的に対してであることを押さえよう。

五 [採点基準]

「a社会を支える価値を b疑い、問い直し、新たに創造することを目的とする学問として人文学を捉えれば、cその「価値」の問題も、d研究者が私的な関心事から脱却しない限り探究できない(c)公的なものとして位置づけられる」という点を押さえよう。16点

* a d 部各3点、b 部6点、c 部4点。

傍線部の前から、「価値」を問い、観察し、分析

し、批判し、創造していく」「研究の『プライベート化』』といったキーワードに着目できている答案が多かった。さらに得点を伸ばすためには、設問の問いかけに対応する文構造になるように解答を組み立てる必要がある。解説をよく読んで復習しておこう。

六 誤答はさまざまな選択肢に分散した。適切でないもの」を選ぶ点に注意し、丁寧に各選択肢を検討しよう。

二

一 a 「見切り発車」はよくできていた。

b 「水をさし」はウ「受け入れようとせずに拒絶し」・エ「客観的な意見を述べて混乱させ」を選んだ人が若干いた。漢字では「水を差す」と表記し、「水を入れる・水を掛ける」が原義。つまり「ちようどいいところに余計なものを入れて、だいなしにする」イメージである。エは多少紛らわしいが、「客観的な意見」にはマイナスのイメージが乏しく、不適切。

c 「浅ましい」は、エ「近視眼的で、思慮が足りない」を選んだ人が多かった。傍線部を含む一文の冒頭にある「それ」は、直前の文の「彼が私と同じ場所にいるという思い」を指す。これは、「自分の能力の境界線を勝手に引き、あっさり」と(画家になる夢を)諦めてしまった「私」の、「嫉妬心にも似た、一種の羨望から来る感情によるもの」と考えられ、傍線部に続く激しい「自己嫌悪」の吐露(特に「私はどこかで彼の挫折を願っていたのか」の一文)か

らも、単に「思慮の足りなさを悔いている」のではなく、「自分の下劣さに対する自責の念と考えたほうがよい。」

二 「採点基準」

「a 彼が b 一般的な男性よりも c 急激に、d 父親になるのだという自覚を c 自分の中に目覚めさせていったということ」を押さえて——10 点

* a 部 1 点、b、d 部各 3 点。

全体的によくできていたが、主語の「彼」に当たる言葉がないなど、説明としてのまとまりを欠く答案も多い。また、「意識の上昇カーブが大きい」を「自覚が強い」といった表現で説明した答案も散見されるが、「女性性」「瞬間的」との対比からも、ここは「強さ」ではなく「速さ」のことをいっている。

三 イオと答えた人が少数おり、確かに微妙な選択肢が並んでいるが、「明らかに含まれない」と断定できる選択肢は、ウ「彼が『私』と子供を選んだことを後悔していて、いつかその気持ちが発露するのではないかという不安」だけである。

四 「採点基準」

「a 彼は、二つのことを並行してできる性質ではなかった」ので、b 講師をしながら絵の制作を続けることは諦めて、c 講師の仕事だけに集中する状況になった」を押さえて——12 点

* a 部 4 点、b 部 6 点、c 部 2 点。

方向としては正しい答案が多いが、「慣用句の意味

を踏まえて」という条件が難しかったのか、まとまりの悪い説明をしている答案が多い。慣用句の説明をしながら、そこにこの文脈における意味を含ませることを考えれば、説明しやすかったはず。

五 一の c「浅ましい考え」と連動した心情を問う設問だったが、こちらはよくできていた。イ・エの誤答も少数散見されるが、そこまでの内容は本文から読み取れない。

六 オはほとんどの人が正解できていたが、エの代わりにアを選択した人が若干いる。前向きになったり後ろ向きになったりを繰り返す「私」の揺れる心情を、逆接の多用によって表現していることを読み取りたい。また、エの「あらゆる色」には、「希望」の色も含まれていることを見逃さないように。

表現に関する問題は、選択肢の内容と本文の内容を比較することが意外と難しい。選択肢のどの部分が不適切なのかを確実に見抜けるように、十分な練習を積んでほしい。

三

一 a 誤答はカ「尊敬の助動詞」が多かったが、尊敬の「る」は未然形に接続するので、その場合は「たまは・れば」となる。

b 誤答はイ「完了の助動詞」エ「受身の助動詞」に割れた。ラ行下二段活用動詞の活用語尾「るる」の形を覚えておこう。

c 誤答は予想通りオ「使役の助動詞」に集中したが、「使役」とすると「(私に) わからせてください」となり、意味が通らない。

d 誤答はク「形容詞の一部」が多く、キ「動詞の一部」も散見されたが、「はべりな」は「はべり+な」の二語である。形容詞や動詞の活用表からもう一度復習してほしい。

二 x 比較的よくできていた。誤答はウに集中したが、「できなさらない」という敬語に当たる部分が傍線部にはない。なお、「言ひ尽くす」は「全部言う・最後まで言う」の意。

y こちらは難しかったようで、誤答がイウオに分散した。確かに紛らわしいが、「平安貴族の姫君はたいてい女房たちと生活している」という古典常識を覚えておきたい。

三 「採点基準」

「a 狭衣中将の、b 『伊勢物語』の中で妹に恋心を抱いた人物と同様に、c 妹同然の源氏の宮を恋慕している心情」を押さえて——10 点

* a 部 2 点、b c 部各 4 点。

「昔の跡」を「旧跡」のようにとらえた人が散見されるが、実際の「場所」のことではなく、昔の物語の「内容」のことという。また、ここは「説明」問題なのに、口語訳をした人がいる。設問の指示は注意して読んでほしい。

四 「掛詞」「縁語」の意味を知らない人が多かった

ようで、Aを正しく押さえられた人は半数程度、B
Cを二つとも押さえられた人は三割程度。設問にあ
る説明文の「……の○と△は掛詞、※と＊は縁語」
という説明形式を覚えておくと、今後同じような出
題がされた場合に対応しやすい。

五 〔採点基準〕

〃 a 急に b あなたが私によそよそしくなるのは、
c かえって d 周りの者には e 不審に d 見えま
す f でしょう」と口語訳して——10点

＊ a d e 部各1点、b 部3点、c f 部各2点。

こちらは「口語訳」問題だが、説明している人が
いる。また、空欄のままの解答も目立つ。確かに難
しい問題だが、状況がよくわからない場合でも、傍
線部の単語を丁寧に現代語に置き換えて書いておけ
ば、何点か部分点をもらえることもあるので、最後
まで諦めずに解答してほしい。

六 誤答はイに集中した。ここは主語が省略された
まま人物の行動が次々と入れ替わって書かれている
ためわかりにくいが一貫して、泣いているのは「狭
衣」で、怯えているのが「源氏の宮」である。

四

一 完答できているものは少なかった。特に c・d
の「自」の読み分けは難しかっただろう。文脈を踏
まえて最適な読みが選べるように、解説をよく読ん
で復習しよう。

二 〔採点基準〕

〃 a 将に別れんとして b 之に謂ひて曰はく」と書
き下して——5点

＊ a 部3点、b 部2点。

「将別」謂之曰で切れ目がある文構造であるこ
とを読み取れなかったものが目立った。また、再読
文字「将に……んとす」を正しく読めていないもの
も見受けられた。基本事項なのでしっかり押さえて
おいてほしい。

三 〔採点基準〕

〃 a 重ねて b 身に余る厚遇をいただいている c
ならば d 他人にねたまれる e ことになろう」と
訳して——9点

＊ a c e 部各1点、b d 部各3点。

「為人所嫉」を「人に嫉妬される」と受身でとら
えることはできている答案が多かったが、「叨掘過分」
の訳出は難しかったようだ。国司に任命された弟に
兄が問いかけている言葉であることを踏まえて、「過
分」の内容をとらえたい。

四 〔採点基準〕

〃 a 他人の悪意ある行為を受けたときに、b 何も言
わずにそれ処理するだけだと、c かえって相手の
感情を逆なでし、d 相手の悪意を増幅させてしま
うおそれがあるから」とを押さえて——12点

＊ a b c d 部各3点。

＊ 〈他人に唾を吐きかけられる〉という具体例に沿

って説明したものも可。

難度の高い設問だったが、自分なりに解答欄を埋
めようと努力している答案が多く見られた。問題文
に書かれていない内容まで作って付け加えてしまっ
ているものも見受けられたが、まずは直前の「弟の
返答」の内容を押さえることを意識して解答を作成
しよう。

五 誤答は分散したが、イ・オが目立った。選択肢
はいずれもつともらしく、難度が高かったと思わ
れるが、〈人の恨みを買うようなことをしない〉〈無
為自然の態度でものごとを受け流す〉という師徳の
態度は、〈先人の髪膚を全うする〉ための手段に過ぎ
ないことを押さえよう。